

環境エネルギー政策研究所／法政大学サステナビリティ研究教育機構 連携企画  
 自然エネルギー政策 公開セミナー  
**全量全種の固定価格買取制度の実現に向けて**

自然エネルギー政策のあるべき姿とは  
**全量全種FIT実現の論点**



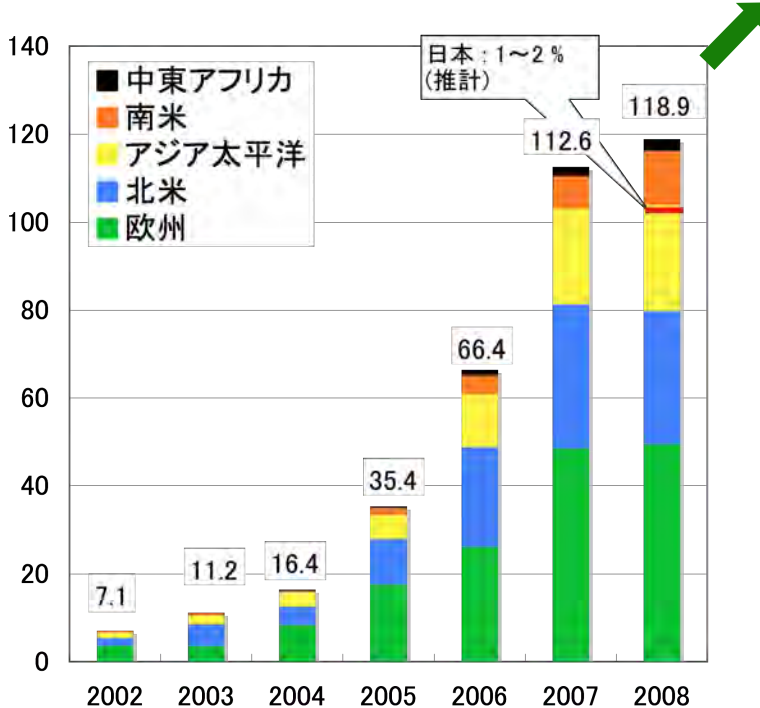
2010年3月12日

飯田哲也 (いいだ てつなり)

環境エネルギー政策研究所  
<http://www.isep.or.jp/>

**自然エネルギー市場はすでに急成長している**

自然エネルギーへの新規投資(2002-2008、10億ドル)



出典：UNEP SEFI, New Energy Finance

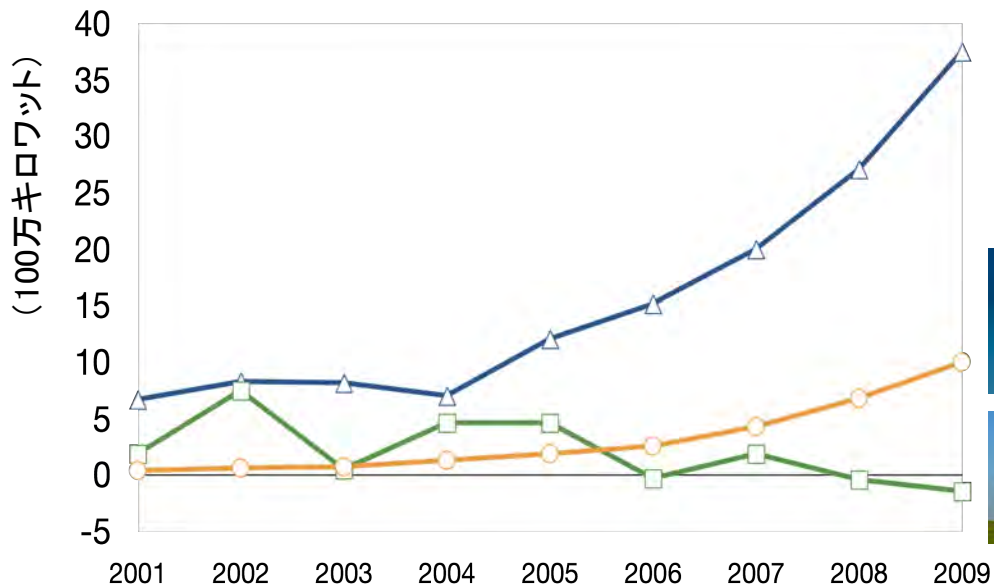
株式時価総額の比較(2009年5月)  
 (主要日本企業vs世界の自然エネ企業)

順位	企業名	(億円)
1	トヨタ自動車(株)	123,783
5	ホンダ	50,733
9	東京電力(株)	32,266
11	Xinjiang Goldwind S&T(中国)	23,978
13	新日本製鐵(株)	23,348
16	Iberdrola Renovables(スペイン)	17,810
17	中部電力(株)	16,593
18	First Solar, Inc(アメリカ)	14,690
19	京セラ(株)	14,348
20	Vestas(デンマーク)	12,870
21	(株)東芝	12,303
22	シャープ(株)	11,707
23	三菱重工業(株)	11,403
26	東京ガス(株)	9,647
28	新日本石油(株)	8,069
29	EDP Renovaveis(ポルトガル)	7,540
35	Gamesa(スペイン)	4,810
36	REC(ノルウェー)	4,680
37	J-POWER	4,639
39	(株)SUMCO	3,810
40	三洋電機(株)	3,726
41	昭和シェル石油(株)	3,328
42	Solar World(アメリカ)	2,990
43	EDF Energies(ポルトガル)	2,990
44	富士重工業(株)	2,842
45	Suzlon(インド)	2,298
46	Sunteh Power(中国)	2,162
47	q-cells(ドイツ)	1,820

出典：環境エネルギー政策研究所作成

## 倍々で伸びる分散型自然エネルギー

- まず風力発電、次いで太陽光発電が原発の伸びを追い越した
- 原発は「伸び」ではなく「純減」の時代に入った



Data from: GWEA, IAEA, Photon, Platts,

2

## 「四面楚歌」のカベを取り払う



3

# フィードインタリフは負担か？

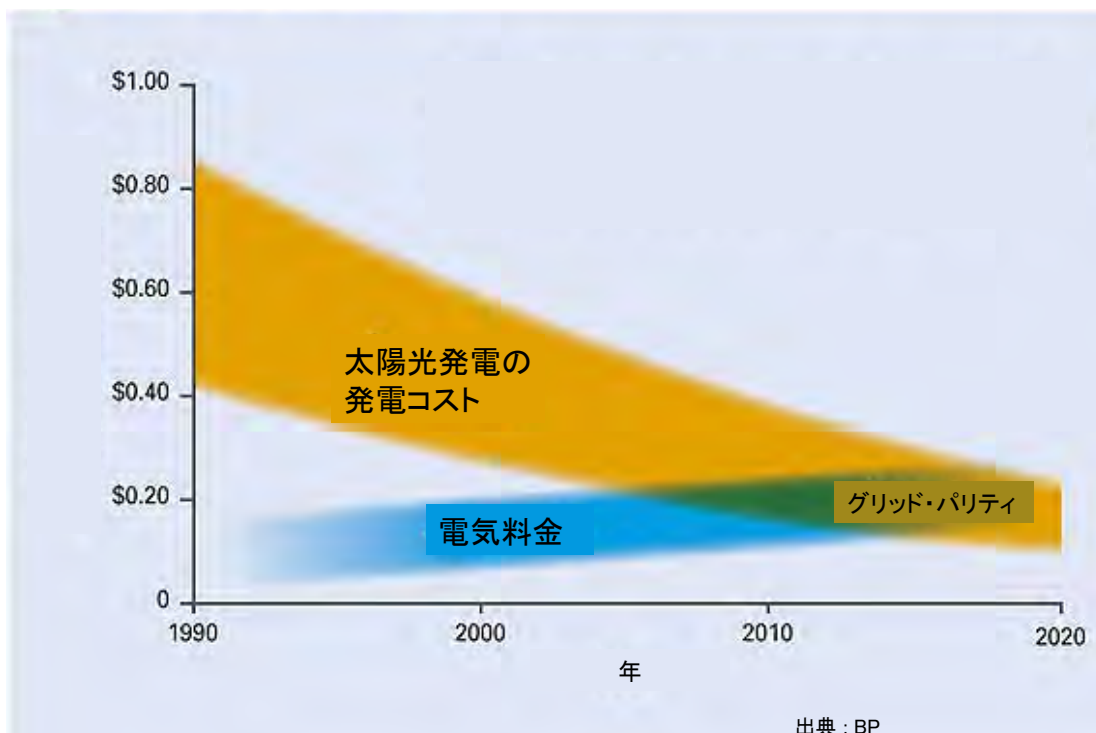


(出典)桜井啓一郎氏作成 (元データは財務省貿易統計)



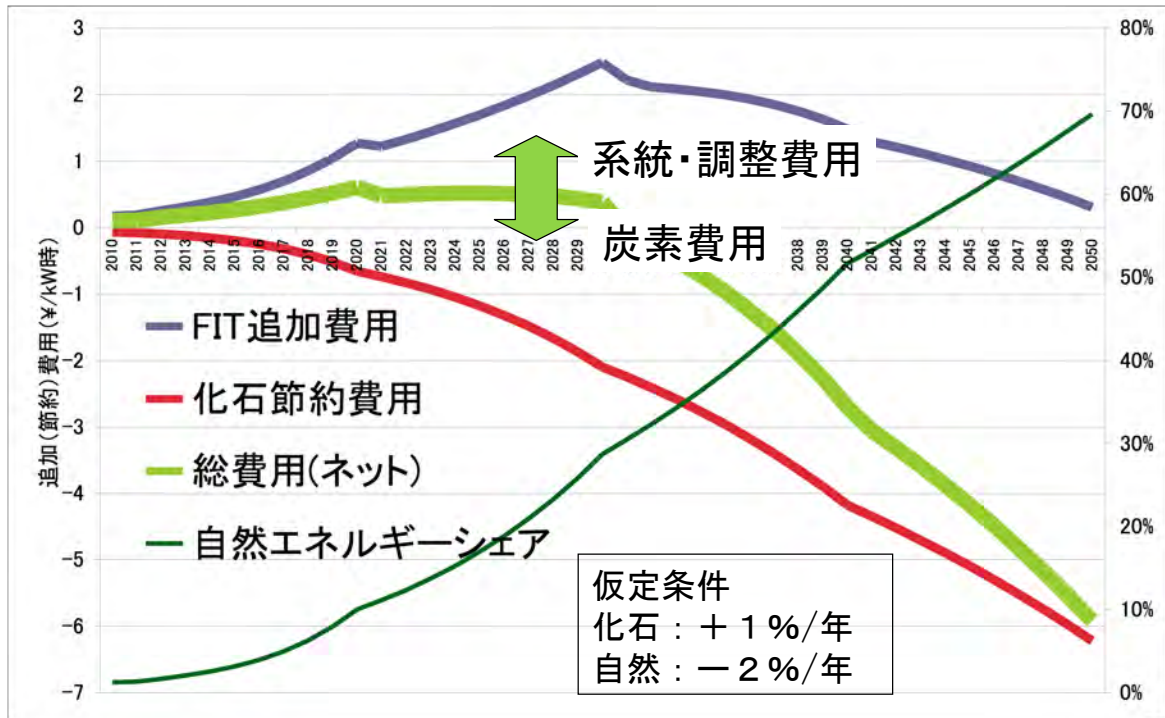
# フィードインタリフの基本原則(その2)

電気を買うより、太陽光発電の方が安くなる～グリッド・パリティ



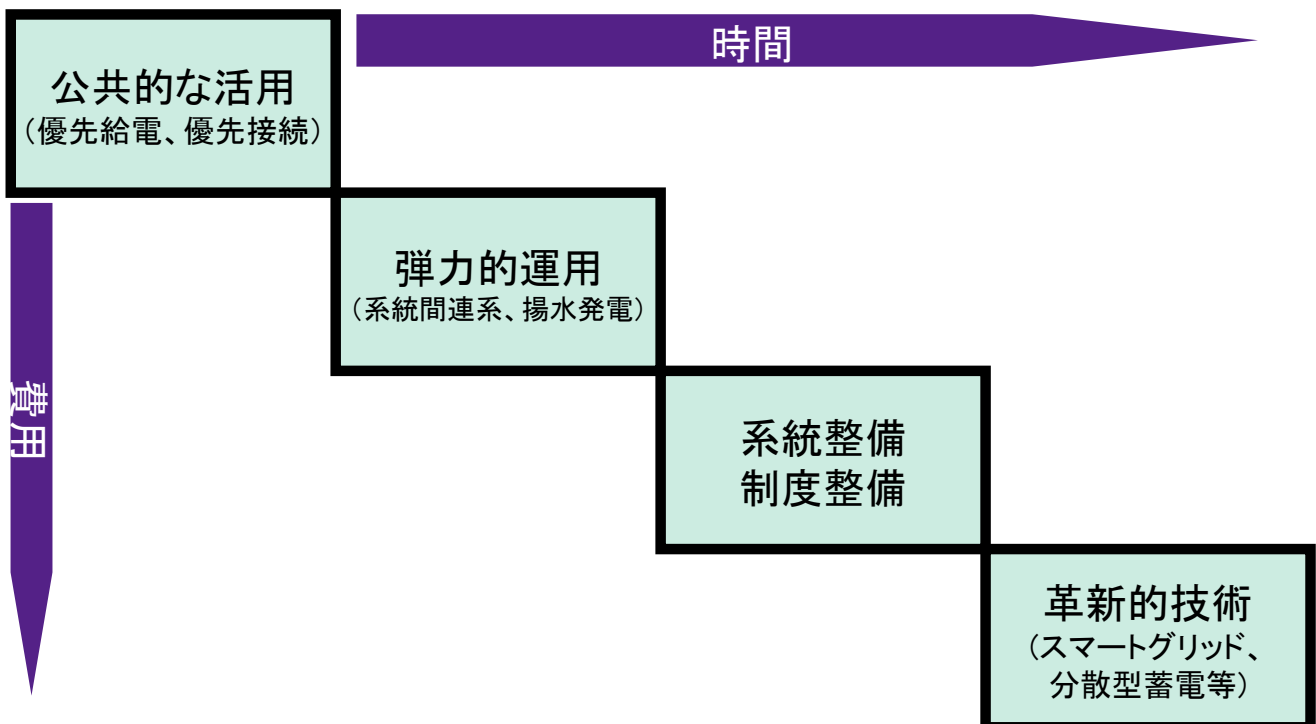
# フィードインタリフの負担と便益のイメージ

- 当面の「負担」は、将来への「大きな投資」となる



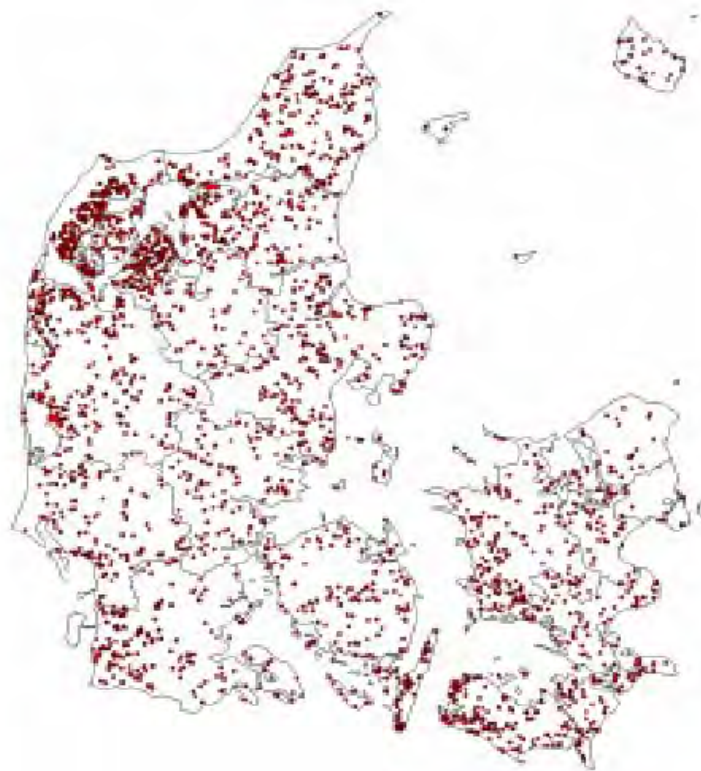
6

# 系統制約の緩和に向けて



7

## なぜデンマークには風力発電の反対がほとんどないか？



8

## フィードインタリフ設計の目安

- ・ 対象：太陽光 風力 バイオマス 地熱 小水力
- ・ 価格：
  - 共通：プロジェクトIRR **8%** (長期金利4%+収益率4%)
  - 条件に応じた価格差：高圧連系など
  - 一定期間毎の見直し：学習曲線の反映など
- ・ その他の重要事項
  - 回避可能原価の算定ガイドライン
  - インバランス費用の検証と社会化
  - 優先接続(優先給電、接続条件)等の設定
  - 環境価値(CO2価値)の帰属

9

# フィードインタリフ価格の構成の考え方

